

行仙宿小屋のソーラー発電設備点検

◇実施日：2019年12月1日(日) 晴

◇参加者：梶野照雄 (1名)

先週、行仙宿小屋のトイレの照明と携帯電話の充電器が使えないことを確認したが、測定器を持って行かなかったので原因が分からなかった。今回はテスターなどの道具を持って、何が原因なのかを調べた。荷物も軽く、作業も一っただけなので、モノレールは使わず歩いて登った。午前10時を過ぎていたので、日差しもあり寒くは無かったが、モノレール終点を過ぎた地点は一面の霜柱で、踏みつけて歩くと小気味の良い音がする。



急逝現場に手を合わせる



モノレール終点付近



外気温7℃

11時丁度に行仙宿着、玄関横の温度計は7℃を指している。12月とは思えない暖かさだ。



充電コントローラ バッテリーの電圧 トイレのタイマー電源
ストーブに火を入れて、ソーラー発電設備の点検を始めた。

ソーラーパネルからは20ボルト前後の電圧が来ているが、充電コントローラの出力側(バッテリー、負荷)端子は0.2ボルトほどの電圧しかない。トイレ照明用タイマーの電源を外してチェックしたが、異常は無かった。

充電コントローラの負荷端子に繋がっていたトイレと携帯電話の充電器を直接バッテリーに接続すると、両方とも正常に動作した。以上の事から充電コントローラの不良と判断、交換が必要なため新しい充電コントローラを調達して、再度作業することにした。

昼食後、トイレトペーパーを補充し、少し溜まっていた紙をゴミと一緒に焼却炉で燃やした。火が収まるのを待って水場の確認に降りた。水場迄の道は、桟木が腐って補修が必要な所が数カ所あった。

水場に到着。水は全く流れていない。奥の岩肌に少し湿り気があり、10秒に一滴位が滴り落ちていただけだ。このまま雨が降らなければ、明日にでも完全に涸れてしまうだろう。溜まっていた水を掻き出して、落葉や泥を取り除く。底の有機物が腐敗しているようで、最後は少し匂ってきた。



栈木が腐っている

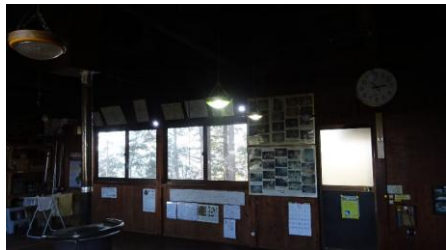


水場は涸れていた



小屋に戻って荷物をまとめ、戸締りと火の元を確認して下山した。充電コントローラが役目を果たしておらず、バッテリーの充電はできない状態になっている。現在はバッテリーに残っている電気だけで照明を賄っているため、LED照明のスイッチを切って数を半分にして、バッテリーの消費を抑えた。モノレール終点付近の霜柱は、まだ残っていた。

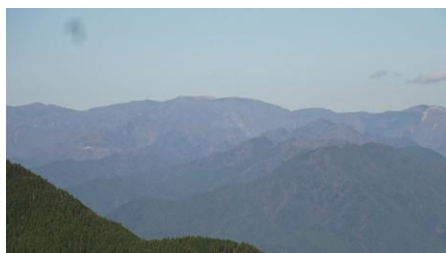
(記；梶野)



照明数を半分に



下山開始



大台ヶ原

行動タイム

10:05 登山口→11:00 行仙宿 13:55→14:10 水場 14:27→14:48 行仙宿 15:00→15:50 登山口